

全国在宅療養支援診療所連絡会 第1回全国大会 プログラム別詳細

タイトル	在宅医療・介護連携拠点が地域包括ケアにおいて果たすべき役割
日時	平成26年3月23日(日) 13:40～15:40
会場	サピアホール(501)
座長	中野一司 (ナカノ在宅医療クリニック・ITコミュニケーション局長・大会実行委員長) 川越正平 (医療法人財団千葉健愛会・世話人)
演者	森真弘 (岡山市保健福祉局) 小松裕和 (佐久総合病院) 豊田健二 (徳島市医師会・連絡会会員) 板垣園子 (チームもりおか)
指定発言	岡島さおり (厚生労働省老健局振興課)
企画の趣旨・概要	<p>平成25年12月の社会保障審議会介護保険部会においてとりまとめられた「介護保険制度の見直しに関する意見」に、「地域支援事業の包括的支援事業に在宅医療・介護連携の推進に係る事業を追加する」との方針が明示された。これを受けて、「在宅医療・介護連携拠点」は、平成23年度および24年度に医政局モデル事業として進められた在宅医療連携拠点事業の成果を踏まえ、平成27年度から取組可能な市町村から順次実施され、平成30年度からはすべての市町村において実施される方向である。</p> <p>そこで本シンポジウムでは、「在宅医療・介護連携拠点が地域包括ケアにおいて果たすべき役割」と題して、拠点機能を担いうる市町村、郡市医師会、病院、診療所の4種類の機関の立場で拠点活動に取り組んでおられる方々にご登壇をお願いした。ご発表に際して、座長より以下の7つの論点を提示させて頂いた。各地での優れた活動の内容はこれらの論点にいずれかに分類されるだろうことから、以下の7つの論点に沿って整理する形でそれぞれの地域の活動特性やその先見性を発表して頂く予定である。それらの発表内容を踏まえて、拠点活動に求められる中核的な活動のあり方やその活動規範を見出しうる討議がなされることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の強みや弱みを把握する ② 臨床実践としての多職種協働(IPW) ③ 教育を通じた交流としての多職種連携教育(IPE) ④ 重層的な会議体による討議 ⑤ 組織づくりとネットワーク形成 ⑥ 規範的統合と“壁”を取り除く作業 ⑦ “三位一体”による地域づくり <p>実際に連携拠点としての活動を進めるためには、地域の人口構成や文化、医療介護資源の整備状況、各専門職の経験蓄積、ステークホルダー間の関係性などなど、地域ごとに異なるさまざまな背景を踏まえて市町村が中心となって地域の医師会や医療機関等と連携しつつ、そのあるべき姿や役割を整えていく必要がある。地域包括支援センターの機能強化策とも密接に関連することになる。4つの講演と討論ののち、最後に厚労省老人保険局振興課の地域包括ケア推進官より指定発言としての総括をいただく。</p>

(敬称略)